

SANSHIN ECHNICAL

加硫促進剤マスターバッチ サンミックスTT-75E)

- 製造元 三新化学工業株式会社
- 発売元 三新商事株式会社

http://www.sanshin-ci.co.jp/

本社営業所 山口県柳井市南町四丁目1番41号(〒742-8576)

TEL (0820) 23-7111 FAX (0820) 23-7117

東京営業所 東京都千代田区岩本町一丁目8番1号 テラサキ第5ビル9F(〒101-0032)

TEL (03) 5823-5501 FAX (03) 5823-5504

大阪営業所 大阪市中央区高麗橋四丁目5番2号 高麗橋ウエストビル5 F (〒541-0043)

TEL (06) 6223-1911 FAX (06) 6223-1915

■ 代理店

1 特徴

- (1) サンミックスTT-75Eは、ポリマーでマスターバッチ化してあり、形状もグラニュールタイプであることから、
 - ・粉塵の心配がまったくありません。したがって衛生的であり、作業者の安全性 が確保されます。
 - ・優れた流動性を有しており、自動計量装置にも適します。
- (2) サンミックスTT-75Eは、予めポリマーでマスターバッチ化されており、ゴムコンパウンドへの分散性が優れていることから、
 - ・分散不良によるトラブルが減少できます。
 - ・混練時間を短縮できます。
 - ・ロール作業における熟練者が不要です。
 - 均一なゴム製品ができます。
- (3) サンミックスTT-75 Eは、貯蔵安定性が優れており、長期保存後も、ゴムの加硫性能には、ほとんど影響しません。

2. 使用方法

サンミックスTT-75Eは、有効成分が75%ですので、正味量換算をしてご使用 願います。

3. ゴム試験例

3-1. EPDM配合

(1) 基本配合 (Test Recipe)

三井EPT3045	(EPDM)	100 (重量部)	<u> </u>
HAFカーボンブラック	(Carbon Black)	50	EPDMカーボン マスターバッチ
ナフテン系プロセスオイル	(Process Oil)	5	├マスターバッチ
ステアリン酸	(Stearic Acid)	1	J
亜鉛華	(Zn0)	5	
硫 黄	(Sulfur)	1. 5	
加硫促進剤 M	(MBT)	0. 5	
加硫促進剤 TT	(TMTD)	1.5[正味量]	

(2) 混合条件 及び 混合作業の手順

ロール容量 : 8" φ × 12" L ロール回転比: 1:1.23 ロール温度 : 50±5℃ ロール間隔 : 2.0mm ゴム量 : 700g

供試する全量のEPDMカーボンマスターバッチをロールに巻きつける。

亜鉛華3号、硫黄、加硫促進剤Mを加える。(4min.)

左右交互に切り返しを行う。(2min.)

薄通しを行う。

ゴム量700g/バッチに分割する。

↓
加硫促進剤TTを加える。(所要時間は別記)

↓
左右交互に切り返しを行う。(2min.)

↓
分出し。

(3) 試験結果 (Test Results)

試料 (phr)		サンミックス TT-75E	サンセラー TT	サンセラー TT-G			
		(2.0phr)	(1.5phr)	(1.5phr)			
配合所要時間 (min, sec.)		30"	1′ 00″	1′ 00″			
ムーニースコーチ試験 (Mooney Scorch Test): M L 1, 125℃							
\	Vm		40. 5	42. 0	42. 0		
1	t 5	(min)	13. 8		13.8		
1	t 35	(min)	26. 4	26. 6	26. 4		
1	t ⊿30 (min)		12. 6 12. 8		12. 6		
キュラストメーター試験 (Curelastometer Test): $\theta=\pm3^\circ$, 2mm, 160° C							
1	t 10	(min)	1.8	1.8	1.8		
1	t 90 (mi		7. 8	8. 1	8. 4		
1	t 90 — t 10	(min)	6. 0	6. 3	6. 6		
Ī	トルク値	$(N \cdot m)$	4. 2	4. 4	4. 5		
引張試験*1 (Tensile Test): 160℃×10min. プレス加硫							
X * 2	Тв	(MPa)	18. 3	17. 9	18. 1		
E	Ξв	(%)	450	440	460		
l N	M 200		7. 5	7. 7	7. 4		
l N	√ 1300	(MPa)	12. 8	12. 2	11.8		
_	⊢s	(JIS, A)	74	74	74		
δ n-1 * 3	ТВ	(MPa)	1. 04	1. 13	1. 30		
E	Ξв	(%)	23. 3	23. 6	29. 2		
l N	√ 1200	(MPa)	0. 24	0. 16	0. 22		
N	√ 1300	(MPa)	0. 33	0. 31	0. 25		

注; * 1) 引張試験 : n = 12 で試験

*2) X : n=12 の単純平均値 *3) δn-1 : n=12 間の標準偏差

(4) 考察

サンミックスTT-75Eを使用すると、配合所要時間が短縮できます。 加硫物性のバラツキに関しては、大差はありません。

3-2. 貯蔵安定性試験

サンミックスTT-75Eの貯蔵安定性について、次の条件下において、サンセラーTTと比較試験しました。

(1)強制劣化の条件

温 度 : 40~45℃ 相対湿度 : 70%

貯蔵方法 : シャーレに入れて開放状態にて貯蔵

貯蔵日数 : 7,14,28days

(2) ゴム試験

(イ) 基本配合 (Test Recipe)

- 天然ゴム (RSS 1号)	(NR)	100 (重量部)
HAFカーボンブラック	(Carbon Black)	50
ナフテン系プロセスオイル	(Process Oil)	5
ステアリン酸	(Stearic Acid)	1
亜鉛華	(Zn0)	5
硫 黄	(Sulfur)	2. 5
加硫促進剤 TT	(TMTD)	0.3[正味量]

(口) 試験結果 (Test Results)

試料(phr)		+	サンミックス TT-75E (0. 4phr)		サンセラー TT (0. 3phr)		
貯蔵日数	7days	14days	28days	7days	14days	28days	
ムーニースコー	-チ試験(Moone	y Scorch Te	est) : M L	1, 125℃	•		
t 5	変化率 (%)	+ 3.0	0	- 5.0	- 1.2	+ 3.3	- 2.2
t 35	変化率 (%)	+ 3.5	0	- 6. 1	- 0.9	+ 2.8	- 0.9
キュラストメーター試験 (Curelastometer Test): $\theta=\pm3^\circ$, 2mm, 140 $^\circ$ C							
t 10 t 90	変化率 (%) 変化率 (%)	- 2.1	- 2. 6 + 4. 2	- 2. 6 - 1. 1	+ 3.0 + 2.1	+ 3.0	+ 3.0
t 90 - t 10 引張試験(Ten	<u>変化率 (%)</u> sile Test): 14	<u> </u>	<u>+ 8.7</u> プレス加砂	0	+ 1.6	- 5.0	- 5.0
TB	変化率 (%)	<u> </u>	- 0.3	– 0. 7	- 0.3	0	+ 3.1
ΕB	変化率 (%)	+ 1.2	- 2.8	+ 0.8	+ 0.6	+ 1.8	+ 2.7
M 200	変化率 (%)	+ 2.9	- 4.8	- 1.9	- 2.1	+ 8.4	+ 9.5
M 300	変化率 (%)	+ 2.8	- 3.3	- 2.8	0	+ 4.0	+ 5.7
Hs	変化	0	0	0	0	0	0

注: 各試料の強制劣化前のサンプルによる試験値を100とし、これに対する変化率(%)で表した。

(3) 考察

サンミックスTT-75E 及び サンセラーTTは、加硫特性, 加硫物性において、経時変化後も大差がなく、同等の貯蔵安定性を有していると考えられます。